

(1日本史 B プリント 1-5) ()組()番 氏名_____

第1章 日本文化のあけぼの 2 農耕社会の成立

b. 弥生人の生活(2)

① 集落・住居…[1 竪穴]式住居中心

→しだいに[2 高床式]倉庫、貯蔵穴や平地式建物も増加

集落の規模の拡大…5～6戸程度→20～30戸程度の大規模なもの、[3 環濠集落]も出現

共同墓地…木棺・箱式石棺などのほか[4 甕棺]・壺棺など使用、[5 方形周溝墓]なども

② 葬り方の変化…共同墓地に木棺・箱式石棺などへの[6 伸展葬]。

[7 甕棺]・壺棺などを使用する。支石墓

→盛り土をもつ[8 方形周溝墓]などもみられ、後期には大規模な[9 墳丘]をもつものも出現

→特定の棺に大陸製の鏡や青銅器など[10 副葬品]が含まれるものも生まれる

その背景には 11 身分差が現れ、支配者と被支配者が現れてきたことを示す

③ 周囲に[12 濠]や[13 土塁]をめぐらした環濠集落も出現

このことから 14 集落同士の争いが発生したことを示す

さらに、石製や金属製の[15 武器]も出現

④ 祭器としての青銅器を製作

ア) [16 銅剣]・銅矛・銅戈=[17 北九州]中心に分布

→島根県[18 荒神谷]遺跡で大量の銅剣(358本)発見

イ) [19 銅鐸]=[20 西日本]中心に分布

日本独自の形 →島根県[21 加茂岩倉]遺跡で39の銅鐸発見

祭祀を共通とする[22 地域連合]の形成

人びとの住居は縄文時代と同じく[23 竪穴]住居が一般的であったが、集落には掘立柱の[24 高床倉庫]や平地式建物もしだいに多くなり、[25 大規模な集落]も各地にあらわれた。それらのなかには、まわりに深い濠や土塁をめぐらした[26 環濠]集落も少なくない。

死者は、集落の近くの[27 共同墓地]に葬られ、土壙墓・木棺墓・箱式石棺墓などに[28 伸展]葬したものが多く、[29 盛り土]をもった墓も広範囲に出現した。[30 方形周溝]墓が各地にみられるほか、後期には西日本を中心に大型の墳丘墓が出現した。また九州北部の[31 甕棺]墓のなかには多数の[32 中国

鏡]や武器などを[33 副葬]したものがみられる。こうした墓の出現は、集団のなかに[34 身分差]があらわれ、各地に強力な[35 支配者]が出現したことを示している。

集落では神祭りがおこなわれた。これらの祭りには、[36 銅鐸]や[37 銅剣]・銅矛・銅戈などの青銅製祭器が用いられた。銅鐸は[38 近畿]地方、平形銅剣は瀬戸内海中部、銅矛・銅戈は[39 九州北部]を中心にそれぞれ分布するなど、共通の祭器を用いる[40 地域圏]がいくつか出現していたことを示している。なお、島根県[41 荒神谷]遺跡では山の斜面に穴を掘って358本の銅剣が埋められており、さらに別の穴には6本の銅鐸と16本の銅矛が埋められていた。また同県の[42 加茂岩倉]遺跡では39本の銅鐸が発見されている。

c. 小国の分立

農耕開始の社会的影響

生産力の向上→[43 余剰生産物]の蓄積→[44 貧富]の差成立、[45 階級]の形成

大規模な治水、灌がい→共同労働の必要→地域を統率する[46 首長]出現

集団間の闘争、併合の繰り返し→有力首長はしだいに支配者化＝「[47 クニ]」成立

クニ同士の結びつきの進展

<まとめ>

- a. 集落の規模が拡大、まわりにく_____>をめぐらした集落(環濠集落)が生まれた。
- b. 基地は基本的にはく_____>であったが、特定の棺には鏡などのく_____>を多く含むものがあった。このことからく_____>差が生まれたことを示している。
- c. 環濠集落の誕生や石製や金属製の鍬の増加などから、集落同士のく_____>が発生したことを示している。
- d. 青銅器のうち、く_____>やく_____>はおもに北九州を中心に出土し、く_____>は近畿地方中心に出土することから、当時、日本はいくつかの文化圏に分かれていたことを示す。
- e. 銅剣や銅鐸がく_____>県(出雲)の2つの遺跡からそれぞれ大量に発掘され、衝撃を与えた。
- f. 集団通しの争いなどによって、集団の併合などが進み、首長の支配者化がすすみ、く_____>が成立した。